

お詫びと訂正

93 ページの表 7-20 は下記の表と差し替えてご覧下さい。赤色の文字が訂正した箇所です。訂正いたしますとともに、お詫びいたします。

表 7-20 摂食過程と老化による影響(入り口から出口まで)

摂食過程	老化による機能低下や障害
1. 認識	感覚機能の低下 視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚の低下や障害による認識障害
2. 食欲	食欲低下 摂食機能の低下, 精神障害(抑うつ, 不安など), 疾病, 服薬などによる食欲不振
3. 摂食	手指の障害 麻痺(脳血管障害など), 関節の変形・拘縮(関節リウマチなど), 振戦(パーキンソンなど), 握力低下(神経・筋疾患など)のため, 手指で食物を口へ取り込むことが障害される 口の開閉の障害 口唇や顎の開閉が不全(片麻痺, 神経障害, 口腔の障害など)のため, 食物の口への取り込みが障害される
4. 咀嚼	咀嚼力の低下 歯の欠損・歯周病・義歯不適合, 歯痛, 唾液分泌の低下などにより, 咀嚼が十分にできない
5. 嚥下	嚥下機能の低下 嚥下反射の低下, 嚥下筋の筋力低下, 粘膜の知覚低下, 嚥下障害など
6. 消化・吸収	消化・吸収機能の低下 消化管の萎縮性変化, 消化液の分泌低下など
7. 排泄	胃腸管の緊張低下 水分や繊維の量, 食事量, 運動量の不足, 服薬の影響, 不安感などでも便秘になりやすい